

項目	判断基準	備考
有効天井高	対象物の高さ＋作業スペース＋クレーン高さ	車両整備なら最低5m、大型なら7m以上
床積載荷重	一般車両：5kN/m ² 、大型車両：10-15kN/m ²	特殊機材はカタログで確認
シャッター寸法	対象物の最大寸法＋左右各500mm＋上500mm以上	大型車両はW5m×H4.5m程度
天井クレーン	定格荷重と揚程を確認→柱・梁への荷重に直結	2.8t以上は構造への影響大
床仕上げ	エポキシ樹脂塗床（耐油性）が標準	重量物走行ならコンクリート金ゴテ＋硬化剤

設計者への質問例：

- 「整備対象物の最大寸法・最大重量のリストはありますか？」
- 「天井クレーンの仕様（定格荷重・スパン・揚程）は発注者と合意していますか？」
- 「整備ピットの寸法は対象物に適合していますか？排水・照明は計画されていますか？」

2. 配置計画の判断基準（チェックリスト A-2-1～A-2-9 対応）

2-1. ゾーニングの判断基準

研修所の基本ゾーニング原則：

関係性	近接させるべき	理由
宿泊棟⇔食堂	○近接	朝食時の移動距離短縮
宿泊棟⇔学校棟	○近接	日常動線の効率化
学校棟⇔講堂	○近接	授業→式典の移動
整備場⇔学校棟	△適度な距離	騒音・振動の影響を考慮
整備場⇔宿泊棟	△適度な距離	騒音・排気の影響を考慮
サービスヤード⇔食堂	○近接（裏動線）	食材搬入の効率化

判断のポイント：

- 整備場は騒音・排気・大型車両動線の問題があるため、宿泊棟から離す（最低30m以上が望ましい）

- 食堂のサービスヤードは研修生の動線と交差しないこと
- 講堂は外部からの来訪者も利用するため、正面玄関から直接アクセスできる配置が望ましい

設計者への質問例：

- 「整備場と宿泊棟の離隔距離はどの程度ですか？騒音の影響は検討していますか？」
- 「食堂の搬入動線と研修生の日常動線は交差しませんか？」
- 「外部来訪者が講堂に直接アクセスできるルートはありますか？」

2-2. 動線計画の判断基準

動線分離の原則：

動線	分離すべき対象	判断基準
研修生動線	サービス動線	研修生がゴミ収集車・食材搬入車を見ない配置
歩行者動線	車両動線	交差点は最小限、交差する場合はガードレール等で安全確保
一般車両	大型車両	整備場への大型車両ルートは独立させる
日常動線	緊急動線	消防車・救急車が建物に接近できるルートを確保

歩行距離の目安（屋外）：

- 宿泊棟→食堂：100m以内が望ましい（雨天を考慮し屋根付き通路があるとなお良い）
- 宿泊棟→学校棟：150m以内が望ましい
- 各棟→駐車場：200m以内

3. 断面・外装の判断基準

3-1. 階高の目安（チェックリスト A-4-1～A-4-5 対応）

用途	階高目安	天井高目安	天井懐
宿泊棟（居室）	3.2～3.5m	2.4～2.6m	0.6～0.9m
学校棟（教室）	3.5～4.0m	2.7～3.0m	0.8～1.0m
食堂	3.5～4.0m	2.7～3.2m	0.8～1.0m
厨房	3.5～4.0m	2.7～3.0m	排気ダクト用に0.8m以上